

事務連絡  
平成21年7月23日

関係各位

大阪府病害虫防除所長

水稻のコバネイナゴに注意しましょう

7月22日(水)の北部巡回調査で、豊能町の一部でコバネイナゴが多発し、1株あたり10頭前後の幼虫がいる水田もあった。

この虫は土中などで卵塊で越冬し、5月中下旬に孵化する。幼虫は水稻の葉などを食害しながら、60～80日の幼虫期間に6～7回の脱皮を行い、成虫は7月下旬ころから出現する。

幼、成虫ともに水稻の葉を食害し、止葉展開以降に株あたり0.8匹以上いると収量、品質に影響する。

○対策

以下のいずれか薬剤を散布する。

トレボン乳剤(1000～2000倍 21日/3回)

MR.ジョーカーEW(2000倍 14日/2回)



▲コバネイナゴ幼虫



▲葉を食害するコバネイナゴ

◎防除薬剤については、

- Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>)

にて確認してください。